

	課題分析	授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語では、1学期中にひらがなの習得が不十分な児童がいた。</li> <li>・算数の文章題の読み取りができない児童が多かった。</li> <li>・話し合いでは、自分の意見を言えない児童や、意見をもてない児童がいた。そのため、決まった児童の発言が多くなる傾向があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で、文字を書く機会を多くもたせるとともに、個別指導の時間を設ける。</li> <li>・言葉の意味を説明したり、問題に慣れさせたりし、丁寧に指導していく。</li> <li>・自分の意見を言えるように、話し合いの機会を増やしたり、ペアワークから始め、徐々に話し合える人数を増やしたりする。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の「書く」では、主語と述語の関係を正しく理解し、段落に分けて書くことが定着していない児童が多い。また、言語事項に関しては、語彙力に乏しい児童が多い。</li> <li>・算数では、計算の得意不得意の差が大きい。時計の学習の定着度が低い。</li> <li>・話し合い活動では、自分の意見を言えない児童や、意見をもてない児童がおり、決まった児童の発言で話し合いが進んでしまう傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な文の型を提示したり、日記を書く活動を習慣化したりして、文や文章を書かせる経験を増やす。書いた日記を読み返して内容を確認したり、教師が児童の作文を紹介したりする時間をとり表現方法を広げる。</li> <li>・計算が定着するよう、ゆっくり確実に解くことを徹底し、反復練習を行う。時計は日々時計を意識して生活させ、定期的に復習の機会を設ける。</li> <li>・友達と考える時間を作ったり、ペアからグループと、徐々に話し合う人数を増やしたりし、話し合いの機会を多くもつ。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語では、長い文章を書く力が乏しい。文章の内容や量、書き終えるまでの時間に個人差が生じる。また、文字を丁寧に書くことや学年配当漢字の習得を苦手とする児童が複数いる。</li> <li>・算数では、課題を解決する際に、「自分の考え」を表現するための技能が不足している。</li> <li>・グループやペアで学ぶ際に、他者への積極的な関わりが少ない。</li> <li>・学級活動では、話し合いの時に自分の考えを発表したり、全体の考えを尊重して考えたりすることができてきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手本となる文をもとにし、写したり書き加えたりする学習を繰り返し行い、抵抗感を減らしつつ個人の技能を高め、自信をもたせる。漢字の「書き」については、書字能力的に配慮の必要な児童への配慮をしつつ、丁寧に書くよう声をかける。ポイントを絞り、励みになる添削をしていく。</li> <li>・教師が、具体的な表現方法を提示し、時間を確保することで、技能を高める。</li> <li>・関わりを増やすために、教師が介在し、児童同士をつなぐようにする。</li> <li>・話し合いでの良い部分を、認めたりほめたりして、次への活動に生かす。</li> </ul>

4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の「書く」学習において、自分の考えたことを言語化できず、上手く表現できない児童が多い。</li> <li>・算数では、課題に対して意欲的に思考する力が弱く、試行錯誤して答えを導き出すことを苦手とする児童が多い。</li> <li>・話し合い活動の場面で多くの意見を出すことができる。ただし、その出てきた意見をまとめるときには、自己中心的な発言が出てくることがあり、意見がまとまりにくい場面が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の気持ちを表現できる機会を増やし、日常的な会話から表現活動を増やしていく。</li> <li>・算数の学習では、知識・技能面の力を付けさせるとともに、それを土台とした思考活動を意図的に取り入れ、経験を積ませ、思考力を高めていく。</li> <li>・学級会の経験を活かし、理由を明らかにした上での発言を定着させる。また、ペアやグループなど少人数の話し合いの時間を設け、意見がまとまりやすい状況を作る。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話を最後まで聞き、理解することが難しい場面があり、指示が通らないことがある。</li> <li>・全体的に学力差が大きく、基礎・基本の定着が難しい児童がいる。</li> <li>・全体的に自分が考えたことを表現できる児童が多い。相手の考えのよさに気づき、自分の考えを振り返り、広げたり深めたりすることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年間を通して、話の聞き方を徹底して指導していく。</li> <li>・基礎基本の定着が難しい児童は家庭学習の習慣がついていないことが多いため、家庭学習の習慣がつくよう保護者とも連携をしていく。また、学習内容の定着が難しい児童に関しては、個に応じて基準を考えていく。</li> <li>・教科に応じて友達の考えを聞いて、思ったことや考えたことを伝え合う時間や振り返る時間を設定していく。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語では、読み手に伝わりやすいよう、文章構成を工夫しながら書くことに苦手意識をもっている児童が多い。</li> <li>・算数では、学力の差が大きく、より丁寧に個別支援をする必要がある。また、基本的な計算問題は解けても、文章題になると正しく演算決定ができない児童も少なくない。</li> <li>・学級全体での話し合い活動では、自分の意見を述べることのできる児童に偏りが見られる。参加の仕方に個人差があるため、他人事になってしまう児童への働きかけが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の説明的文章を扱う際は、文章構成に着目させ、段落の順序や接続詞の意味を丁寧に押さえ、確認していく。また、学習したことを生かしながら文章を書き、推敲する時間を設定する。</li> <li>・習熟度別学習をより効果的に活用し、適切な指導ができるよう、算数専科の教員と協力して、教材研究や準備を進めていく。</li> <li>・教科に限らず、様々な場面で対話の機会を増やすことにより、児童が自信をもって話し合い活動に参加できるようにしていく。2人組、3人組、4人組と徐々に人数を増やし、緊張感を減らしながら話す経験を積んでいけるよう配慮する。また、相手の話を受けて質問したり、反応したりしながら聞くなど、交流を通して自分の考えを深めていくためのポイントを丁寧に指導する。</li> </ul>

専科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALT やデジタル教科書の音源を用いて、英語の正しい音に触れさせることはできたが、子供たちが正しい音声で発音できたかは少し課題が残る。また、言語材料として指定されている表現について大まかに理解はしているものの、正しい形で表現できた児童は少ない。(外国語)</li> <li>・学習に意欲的に取り組む児童が多い。題材によって集中力に差がある児童もいるため、最後まで意欲的に粘り強く取り組む姿勢には課題がのこる。(図工)</li> <li>・生き物の観察や飼育の学習では、なかなか生き物の成長のタイミング（雄花雌花の開花・メダカの発生）と観察のタイミングが合わないことがあった。また、実験や観察に時間がかかってしまい、グループや個人の意見を共有する場面を設定することが難しかった。(理科)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT 機器を活用し、手本となる音声と自分の音声と比較し、正しい発音について検討できる場を設ける。また、主語→動詞から成る基本的な構文を繰り返し練習し、友達と点検し合う中で、英語を正しい形で使えるように支援していく。(外国語)</li> <li>・児童同士で作品を見合える授業展開や環境の工夫を取り入れる。鑑賞で新しい発想のきっかけをつかむと共に、もっとやってみたいと意欲を保てるよう学習を展開していく。(図工)</li> <li>・複数個体を少しずつずらして栽培したり飼育したりできるようにしたり、予め動画や写真を撮影することで、疑似的な実験・観察ができるようにしていく。ICT 機器を使って（Padlet など）、素早くグループの意見を交流したり個人の意見を共有したりできるように環境を整える。(理科)</li> </ul>
----	---	--